

## 尿酸の基礎

## 2) 近年の生活習慣の変化と血清尿酸

## Recent change in life style and serum uric acid

東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 教授

Atsuo Taniguchi 谷口 敦夫

## Key Words

血清尿酸値,  
高尿酸血症,  
疫学

## Summary

ある集団の血清尿酸値は生活習慣や時代の変遷とともに変化する可能性がある。日本では高尿酸血症の割合は最近の調査では下降する傾向がある。年齢別の高尿酸血症の割合においては、従来から男性では30歳台で最も高く、その後は年齢とともに緩やかに下降する傾向があったが、異なる調査結果も報告されている。一方、中国では地域によって年齢別にみた高尿酸血症の割合が異なることが報告されている。また、血清尿酸値に関連する要因としては、従来から食品やメタボリックシンドロームに関連する要素が中心に検討されてきたが、新たな要因として住居地域、睡眠時間、残留性有機汚染物質濃度、サルコペニアなどが見出されている。各地域における血清尿酸値の分布の傾向や血清尿酸値に関連する要因については今後も注目していく必要がある。

## はじめに

血清尿酸値は遺伝要因と環境要因で規定されるので、生活習慣の変化や時代の変遷とともに、ある集団の血清尿酸値が変化したり、血清尿酸値に関連する新たな要因が同定される可能性がある。本稿では最近の日本における血清尿酸値についての検討を紹介するとともに血清尿酸値に関連する環境要因について述べてみたい。

## 1 日本での血清尿酸値の推移

Oguraらは1991～2002年に岡山大学に入学した18～19歳の男性を対象に、血清尿酸値を調査している<sup>1)</sup>。平均血清尿酸値は1991～1994年、1995～1998年、1999～2002年の各集団で徐々に上昇していた(図1)。また高尿酸血症(血清尿酸値7.6mg/dL以上)の割合も各々3.4%、4.4%、4.5%と増加していた。この研究ではbody mass index (BMI)と血清尿酸値には弱い相関が認められている。しかし、この調査期間においてBMIは $21.6 \pm 0.15$ から $21.0 \pm 0.04$ と有意に低下している(図1)。高